

地元企業を支援する多角的共創支援プラットフォーム

☐ 住む ☐ 癒す ☒ 学ぶ
☐ 動く ☐ 楽しむ ☐ その他

①提案によって解決する自治体の課題のイメージ

浜通り地域では教育環境の整備やスタートアップ・先端人材の流入が進む一方、現地ヒアリングにより「2大離脱課題」が浮き彫りになった。【課題1】スタートアップ・先端人材の定着難（孤立と採用難）移住・進出した人材が、地元企業、農家等とのビジネス共創や存在価値を見出せず、補助金終了と同時に帰還する。地元企業は「魅力や事業内容が知られていない」ために人材採用が進まない。【課題2】地域の児童生徒の地域外流出（学校×産業の接続不足）：地域で育つ子どもたちが、地元企業や先端研究機関、移住してきたプレイヤーとの接点を持たず、魅力や可能性を知らないまま、進学・就職と同時に域外へ流出する。【解決の方向性】TOPPANの教育システム「まちスク®」の調整機能を活用し「多角的共創支援プラットフォーム」としてシステム再構築。「子どもへの地元企業の魅力発信」と「大人のビジネス共創」の2軸で、関係人口から定住人口への移行を促すビジネスモデル実証実施。

②提案の概要

【コンセプト】浜通り最適化2軸プラットフォーム

（①②は用途が異なるため別ページを設置するがエンジンは同じ）

① まちスク FOR 大人：

企業×企業（BtoB）：移住企業等のスキルと、地元企業・農家の「DX・広報」課題をプロボノ等でマッチング。協働を通じて魅力を伝え、採用・定着を促す。

企業×市民（BtoC）：（例）スタートアップの先端製品やサービス（ヘルスケア、防災、モビリティ等）の住民体験モニター募集。住民は最先端技術を生活の中で無償体験でき、企業は生活データを迅速に収集。（補完機能）開封率約80%超のRCS/SMSで確実に情報を届け、高いシステム利用率を維持する仕組みを検証。

② まちスク FOR スクール：児童生徒と地元企業をマッチング。授業や

体験を通じて地元の魅力・産業を早期に認知させ、将来の地元採用に繋ぐ。

【新規性・従来モデルとの違い】：単一の教育連絡ツールから、地域と企業、学校が双方向で繋がる「多角的な共創PF」へ機能を刷新。ビジネスモデル検証を行う。

【展開】：大熊町等の先行実証（Phase 1）から、12市町村（Phase 2）へ広域展開

システム概念図

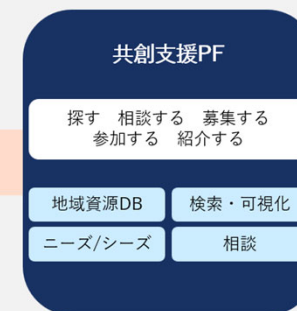
①「まちスク FOR 大人」のイメージ

様々な利用者がユーザーとして存在し、各主体の共創を支援。
具体面談の実施や、参加者の募集、既存PJへの接続、事例の可視化を担うPF。

想定されるユーザー

- 地域企業・スタートアップ
- 大学・研究機関
- 学校・教育関係者
- 住民・コミュニティ
- 行政・公共機関
- エリア外企業
- 既存プロジェクト・イベント

PFの役割



アウトプット

- 面談・相談設定
- 募集・参加者獲得
- 既存プロジェクトへ接続
- 実績・事例の可視化

③事業実施に対し必要な要件

1. 自治体、インキュベーション施設、現地コーディネーターとの窓口構築。
2. スタートアップ、地元企業、学校、関係機関への周知・ニーズ把握。
3. ワークショップ開催時の施設提供、住民への広報協力

④想定スケジュール

R8年9月～10月：「まちスクFOR大人」説明と課題ヒアリング（どの様なシーズ・ニーズを登録したいか、どの様なシーズ・ニーズが登録されていれば利用したいか）。R8年12月：マッチング試行、R9年1月：成果や課題の振り返り・評価、本格稼働に向けた検証。※実証は（R9年3月末迄）

⑤地元企業等とのマッチング希望

☒ あり ☐ なし

会社名：TOPPAN株式会社